

地域医療盛り上げたい

熱意 乱舞で表現

徳島大医学部「地医輝連」発足

阿波踊りで地域医療を盛り上げよう。徳島大学医学部の学生サークル・地域医療研究会が「地医輝連」を発足させた。へき地の医師不足が深刻な中、地域医療の問題に真剣に向き合う医学生が多いことを知ってもらいたいのが狙い。8月14日、学生らの思いに共感した蜂須賀連とともに演舞場デビューを果たす。

来月14日 蜂須賀連とデビュー



蜂須賀連の鳴り物に合わせて阿波踊りの練習をする地医輝連の連員＝徳島市内の城西中学校

次代へ

'10阿波踊り

地医輝連は、1～5年生39人と顧問の谷憲治教授（総合診療医学）ら地域医療に携わる医師7人の計46人。連の名前には「地域医療の未来が輝くように」との願いを込めた。新たに作る法被には眉山や渦潮をあしらひ、徳島らしさを強調する。

結成を呼び掛けたのは、地域医療研究会のOBで県立三好病院の研修医、河南真吾さん(27)。希望の持てる地域医療の実現を目指すため、県など関係機関や徳大の医学生らの取り組みを知ってもらい、県外出身の医学生らに阿波踊りを通じて徳島に親しみを持ってもらおうと考えた。

河南さんは、2004年から入連している蜂須賀連の岡本忠連長と一緒に踊ってもらえるよう依頼し、快諾を得た。地医輝連のメンバーは3月から毎週木曜に2時間ほど、徳島市内の城西中学校で合同練習。蜂須賀連のベテランたちから手ほどきを受けている。

地医輝連の野田和克連長(21)＝上板町鍛冶屋原、医学科4年＝は「将来、徳島の地域医療を支えていくのは自分たちだ」という気概で踊りたい」と意気込んでいる。